

○学部 生活単元学習 学習指導案

日時
場所
対象
指導者 T1 T2

1. 単元名「 」

2. 単元について

生徒観・単元観・指導観

3. 単元の目標（各教科等、ア、イ、ウ）

- ……………(国、ア)
○……………(国、イ)
○……………(国、ウ)
○……………(○、○)
○

単元全体として、3つの柱をバランス良く育成することを前提とし、柱に沿って目標を設定する。「～できる」と記述する。

ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力人間性等

4. 単元の評価規準（各教科等、学部、ア、イ、ウ）

- ……………(国、小2、ア)
○……………(国、小3、イ)
○……………(国、中1、ウ)
○……………(○、○、○)
○

単元の目標に対応させて、評価規準を設定する。学び→主体的と変更する。「～している」と記述する。

ア知識・技能 イ思考・判断・表現 ウ主体的に学習に取り組む態度

5. 単元の計画（全○時間）

次	時	日時	学習内容	指導内容(学習指導要領か学習内容表から)

6. 単元の個人目標（各教科等、学部段階、ア、イ、ウ）

児童生徒	個人目標	
A	教科等名	①(学部段階 ア)
		②(学部段階 イ)
		③(学部段階 ウ)
	教科等名	①(学部段階 ア)
		②(学部段階 イ)
		③(学部段階 ウ)
B	教科等名	①(学部段階 ア)
		②(学部段階 イ)
		③(学部段階 ウ)
	教科等名	①(学部段階 ア)
		②(学部段階 イ)
		③(学部段階 ウ)

ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力人間性等

7. 本時の目標（各教科等、ア、イ、ウ）

- ・・・・・・・・・・・・・・・・（国、ア）
 ○・・・・・・・・・・・・・・・・（国、イ）
 ○・・・・・・・・・・・・・・・・（理、イ）
 ○・・・・・・・・・・・・・・・・（○、○）

ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力人間性等

8. 本時の評価規準（各教科等、学部段階、ア、イ、ウ）

- ・・・・・・・・・・・・・・・・（国、イ）
 ○・・・・・・・・・・・・・・・・（理、イ）
 ○・・・・・・・・・・・・・・・・（○、○）

本時の目標に対応させて、評価規準を設定する。行動目標になっている場合は「～できる」を「～している」の文末変換だけでもよい。

ア知識・技能 イ思考・判断・表現 ウ主体的に学習に取り組む態度

9. 本時の個人目標（各教科等、学部段階、ア、イ、ウ）

児童生徒	個人目標
A	①・・・・・・・・・・・・・・・・（国、小2、イ）
	②・・・・・・・・・・・・・・・・（〇、〇、〇）
B	①
	②

ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力人間性等

本時の目標や本時の評価規準を踏まえ、さらに個人に応じて目標設定しているということで「評価基準」の機能をもつと考える。

10. 本時の展開

時間	活動内容	指導・支援

11. 場の設定

--

12. 本時の個人目標の評価（各教科等、学部段階、ア、イ、ウ）

児童生徒	個人目標	評価	児童生徒の姿、次回に向けて
A	①・・・・・・・・・・ （国、中2、イ）		
	②		
B	①		
	②		

ア知識・技能 イ思考・判断・表現 ウ主体的に学習に取り組む態度

評価は○と△の2段階評価

13. 授業改善について（主体的、対話的で深い学びの視点から）

--

14. 単元の個人目標の評価 （各教科等、学部段階、ア、イ、ウ）

児童生徒	個人目標		評価	児童生徒の姿、 今後に向けて
A	教科等名	①(学部段階 ア)		
		②(学部段階 イ)		
		③(学部段階 ウ)		
	教科等名	①(学部段階 ア)		
		②(学部段階 イ)		
		③(学部段階 ウ)		
B	教科名	①(学部段階 ア)		
		②(学部段階 イ)		
		③(学部段階 ウ)		
	教科等名	①(学部段階 ア)		
		②(学部段階 イ)		
		③(学部段階 ウ)		

ア知識・技能 イ思考・判断・表現 ウ主体的に学習に取り組む態度
評価は○と△の2段階評価

15. 単元について気づき・意見・今後に向けて

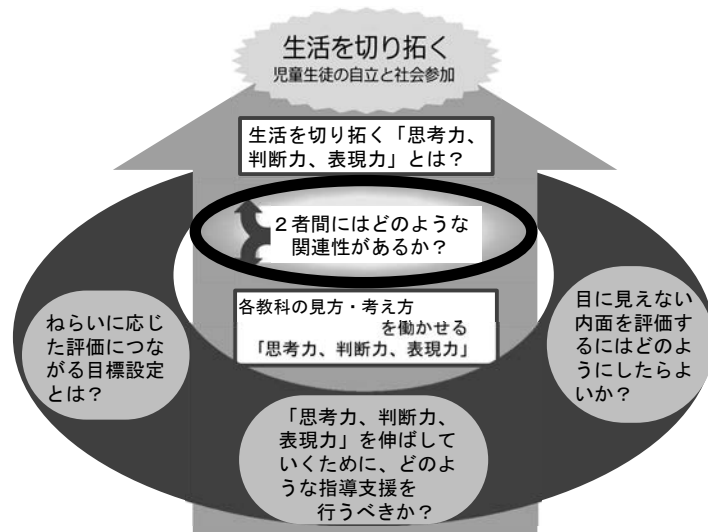
--

この指導案様式は、今期研究の1年次令和4年度の10月からの学部別授業研究から使用した。

3 知的障害特別支援学校各教科の「思考力、判断力、表現力等」との関連を考察する。

次に、研究内容（１）において整理された「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題のうち、生活を切り拓く力として本校で検討した【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】（P26表８）と「教科の見方・考え方を働かせる『思考力、判断力、表現力』」との関係性について検討した。

双方は関連し合っていると想定し、関連性を整理するにあたっては、【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】と、特別支援学校学習指導要領の知的障害各教科（以下各教科と示す）の「思考力、判断力、表現力等」の目標との類似性を探ることとした。まず、【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】の分類の項目として挙げた「１ 周囲の事象の捉えに関するもの」「２ 課題解決に向けた計画に関するもの」「３ コミュニケーションに関するもの」の中から、「周囲の事象の捉え」「課題解決・計画」「伝える、伝え合う」をキーワードとして挙げ、このキーワードと照合させながら、各教科の「思考力、判断力、表現力等」の目標の表記を確認した。キーワードと類似性や関連性があると思われた各教科について、さらに学部段階での「思考力、判断力、表現力等」の目標の表記を確認した。



もの」「２ 課題解決に向けた計画に関するもの」「３ コミュニケーションに関するもの」の中から、「周囲の事象の捉え」「課題解決・計画」「伝える、伝え合う」をキーワードとして挙げ、このキーワードと照合させながら、各教科の「思考力、判断力、表現力等」の目標の表記を確認した。キーワードと類似性や関連性があると思われた各教科について、さらに学部段階での「思考力、判断力、表現力等」の目標の表記を確認した。

1 周囲の事象 の捉えに 関するもの	①	周囲の物事や変化に気付く力
	②	周囲の状況を受け止め、対応しようとする力
	③	相手の伝えようとすることや言葉・文章や記号等が意味することを受け止め、対応しようとする力
	④	ちょっと先の事象を想像したり、行動の結果を予測したりする力
	⑤	出来事や行動の理由や背景を説明する力
	⑥	事物の共通の特徴に気付いたり、特徴に基づいて分類したりする力
2 課題解決に 向けた計画 に関するもの	⑦	自分で課題を見付けて、取り組むべきことを考えたり決めたりする力
	⑧	もっている知識や技能を他の学習や場面でも使う力
	⑨	課題解決に向けて計画する力
	⑩	優先順位をつける等条件に応じて計画する力
	⑪	遂行途中でも状況に合わせて計画を変更したり、立て直したりする力
	⑫	試行錯誤しながら解決に取り組む力
	⑬	自分の活動や学習を振り返り、評価する力

3 コミュニケーションに関するもの	⑭	伝えたいことを発信する力
	⑮	様々な方法でコミュニケーションをとる力
	⑯	依頼の場面等で、困っていることや必要な支援について説明する力
	⑰	自分から相談する力
	⑱	自分の考えと他者の考えを見比べる力

(1)「1 周囲の事象の捉えに関するもの」と各教科等の目標との関連

まず、【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】の「1 周囲の事象の捉えに関するもの」と各教科の「思考力、判断力、表現力等」の目標のうち類似していると考えられるものを挙げた。「周囲の事象」とは、児童生徒の身の回りの物や人、出来事等である。小学部生活科の目標の中では「自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然」と表記されている。中学部の段階では「身近な人々、社会」は社会的事象として社会科で示されている。生活科での「自然」は、「生命」・「地球・自然」・「物質・エネルギー」と扱う対象を広げ理科の中で示されている。

生活科	小学部			
	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて <u>理解し</u> 、			
	1 段階		2 段階	
	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて <u>関心をも</u> ち、		自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて <u>気付き</u> 、	
社会科	中学部		高等部	
	社会的事象について、 <u>自分の生活と結び付けて具体的に考え</u> 、		社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に <u>考えたり</u> 、 <u>自分の生活と結び付けて考えたり</u> 、	
	1・2 段階		1・2 段階	
	社会的事象について、 <u>自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたこと</u> を		<u>社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力</u> 、自分の生活と結び付けて考える力	
理科	中学部		高等部	
	観察、実験等を行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。		観察、実験等を行い、解決の方法を考える力とより妥当な考えをつくりだす力を養う。	
	1 段階		1 段階	
	<u>主に差異点や共通点に気付き</u> 、疑問をもつ力を養う。		主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。	
	2 段階		2 段階	
	疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。		主にそれらの働きや関わり・変化や関係・性質、規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。	

そこで、生活科及び社会科と理科の目標から「周囲の事象の捉えに関するもの」と関連する表記を抜き出した。周囲の事象を「捉える」ことは、生活科の目標において「理解し」と表記されていると考えた。さらに段階別に見ると小学部1段階では「関心をもち」、2段階では「気付き」、3段階で「理解し」と表記されており、「周囲の事象の捉え」として、事象に

「関心を向け」事象の存在に「気付く」ことから始まり、次に事象を「理解する」ことが求められていることが分かる。これは【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】の「周囲の事象の捉えに関するもの」の中でも「①周囲の物事や変化に気付く力」や「②周囲の状況を受け止め、対応しようとする力」との関連が大きい。

また生活科では、周囲の事象と「自分との関わり」について理解することが求められており、社会科の目標の「自分の生活と結び付けて考える」につながっていることが分かった。自分自身のことや身近な事象に対して関心を向けて気付き、気付いたことと自分との関わりを考える小学部段階から、理解した事柄を自分の生活に取り込み、自分の生活を起点にさらに広い社会的事象について、自分の生活と関連させながら捉える中学部・高等部段階へと発展していることが分かった。さらに、社会科の高等部の目標には、「社会的事象の相互の関連、意味を多角的に考える力」と表記されており、自分と対象の事象との関連だけではなく、対象と対象の関連について考えることが求められていることが分かった。そのためには、自己の視点だけでなく、他者の視点や立場に立って事象を捉える力も必要となると考えられる。

「思考力、判断力、表現力」を育成する上で、周囲の事象をどのように捉えるのかということは大変重要である。周囲の事象の捉えには、気付きから理解へ、事象と自分との関係性の理解から、事象相互の関連性の理解へという段階性があり、実際の指導においては、児童生徒の習得の状況や発達段階に応じた丁寧な目標設定をする必要があると考える。

次に「事象の捉え」と理科の目標について検討した。まず、中学部1段階の「事象を見比べて差異点や共通点に気付く」の表記に着目した。社会では事象間の関係性の理解は高等部段階で求められているが、理科では事象間の関係性への気付きが中学部1段階で求められていることが分かった。理科では、観察や実験等児童生徒が自分で見たり聞いたり操作したり体験したりして実感した上で、事象間の関連に気付くことが重視されている。さらに、実験等自分で働きかけた上で、その結果としての事象の変化を捉えたり、継続的な観察等事象の経時的な変化を捉えたりすることが求められている。これは、出来事の因果関係を捉えることにつながり、【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】の「④ちょっと先の事象を想像したり、行動の結果を予測したりする力」との関連が深いと考えた。このような「結果をイメージした上で、事象の変化に着目したり、自分が対象に働き掛けて状況の変化を捉えたりして、結果を認識する」という経験の積み重ねは、「⑤出来事や行動の理由や背景を説明する力」を育成する上でも必要となると考えた。

【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】の「1 周囲の事象の捉えに関するもの」のうち「③相手の伝えようとすることや言葉・文章や記号等が意味することを受け止め、対応しようとする力」との関連が大きい教科として国語科を取り上げて「思考力、判断力、表現力等」の目標を確認した。

国語科	小学部	
	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。	
	1段階	2段階
	言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力	言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力

「相手の伝えようとすることや言葉・文章や記号等が意味することを受け止め」として、小学部1段階には「言葉をイメージ」、2段階には「言葉が表す事項の想起や受け止め」と表記されている。「言葉・文章や記号等が意味すること」の具体的な内容は、国語科の「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の内容に示されている。なお、内容には「伝えたり表現したりすること」として表記されているものもある。表出できるということは受け止めることができるものであると考え、「言葉・文章や記号が意味すること」の表に含めて示すこととした。

学部段階	言葉・文章や記号が意味すること	表記場所
小1段階	事物の内容を表していることそのものを感じ取る	「知識及び技能」
小学部 2段階	気持ちや要求、物の名前や動作	「知識及び技能」
	体験したこと	聞くこと・話すこと
	登場するものや動作、時間の経過	読むこと
小学部 3段階	事物の内容	「知識及び技能」
	出来事等、見聞きしたことのあらまし、自分の気持ち	聞くこと・話すこと
	登場人物の行動や場面の様子、時間的な順序	読むこと
中学部 1段階	事物の内容、経験したこと	「知識及び技能」
	話の大体、見聞きしたことのあらまし、自分の意見	聞くこと・話すこと
	情景や場面の様子、登場人物の心情、時間的な順序や事柄の順序	読むこと
中学部 2段階	考えたことや思ったこと	「知識及び技能」
	見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由	聞くこと・話すこと
	情景や場面の様子、登場人物の心情、出来事の順序や気持ちの変化	読むこと
高等部 1段階	考えたことや思ったこと	「知識及び技能」
	話し手が伝えたいこと	聞くこと・話すこと
	登場人物の行動や心情、考えとそれを支える理由や事例との関係	読むこと
高等部 2段階	登場人物の相互関係や心情、事実と感想、意見等との関係、文章全体の要旨	読むこと

表からは、児童生徒には「発達段階や教科の内容の習得の状況に応じた受け止め」が求められていることが分かった。それは言い換えると、児童生徒が受け止めやすいように、段階も含めた実態等に応じて伝えたい事柄や伝えたい意図等を整理して提示することが、教師に求められているということでもあると考えた。

【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】の「1 周囲の事象の捉えに関するもの」のうち「⑥事物の共通の特徴に気付いたり、特徴に基づいて分類したりする力」について、関連が大きい教科として算数・数学科を取り上げて「思考力、判断力、表現力等」の目標を確認した。

数 学 科 算 数	小学部	中学部	高等部
	日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質等に気付き感じ取る力、	日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質等を見出し統合的・発展的に考察する力、	

数理的な視点で捉えられる事物の共通の特徴として、数量や図形等の性質が示されている。小学部では、日常の事象の中から数量や図形の性質に直感的に気付いたり感じ取ったりすることが求められ、中学部高等部では日常の事象の中から見出すことが求められている。見出すには、意図的に日常の事象を数理的な視点で見ることが必要であると考え。つまり、日常の事象の中から捉えて欲しい要素の浮き立たせ方を、児童生徒の発達の段階に応じて工夫していかなければならないということが分かった。

気付いたり感じ取ったり見出したりした性質を用いて、特徴に基づいて「分類する」を初めとしてどのように思考しながら操作するかについては、小学部段階の目標の中で示されている。

学部段階	思考しながらの操作	項目
小学部 1段階	身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりする等、数量に関心をもって関わる	数量の基礎
	数を用いて表現する	数と計算
	量の大きさにより区別する	測定
小学部 2段階	具体物や図等を用いながら数の数え方を考え表現する	数と計算
	分類したり集めたりする	図形
	一方を基準にして他方と比べる	測定
	共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する	データの活用
小学部 3段階	数の数え方や計算の仕方を考え表現する	数と計算
	重ねたり移動させたり具体的に操作をして考える	図形
	目的に応じて量を比較する	測定
	比較のために簡単な絵や図に置き換えたりして考える	データの活用

中学部と高等部の段階別の目標には、「数量や図形等の数理的な性質を用いて考察したり、表現したりする」と表記されており、この表記から具体的な操作として捉えることは難しいので、ここでは実際の操作として見て取れる小学部段階の表記を確認した。表に示すとおり「分類する」だけではなく、「対応させる」「組み合わせる」「区別する」「数・図・グラフや表で表現する」「集める」「重ねたり移動させたりする」「比較する」「絵や図に置き換える」等があり、「分類する」だけにとどまらず幅広いことが分かった。実際の指導にあたっては、児童生徒一人一人の実態を踏まえ、具体的な「思考力、判断力、表現力等」の目標と評価規準を設定しなければならないが、「分類する」を含めた表中の操作の表記を用いることができると考えた。また、算数・数学科に限らず、児童生徒の行動や物の操作の様子から、思考を読み取る上でも参考とすることができると考えた。